

# 「川根本町立学校の今後の方向性」報告書

令和2年3月2日

川根本町・川根本町教育委員会

## 「川根本町立学校の今後の方向性」報告書目次

はじめに	1
1. 入学者数・児童生徒数の推移	3
2. 川根本町立学校の今後の方向性	4
3. 川根本町学校教育施策スケジュール（案）	5
4. 令和元年度の川根本町の小中学校の現状	5
5. 教育施策スケジュール構想図	6
6. 参考資料	8
7. 「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」意見の概要	13
8. 令和元年度 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会委員名簿	18
9. 令和元年度 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会研究会委員名簿	19

はじめに

川根本町教育委員会は、「子どもたちは町の宝」、「教職員は町の財産」という理念に基づき、2015年度に、小規模校のメリットを最大限活かす教育の取り組み計画「学校教育ビジョン2015、『学力向上ネットワークプラン～キャリア教育を基盤としたRG授業』」を策定した。その後、「学校教育ビジョン」は毎年度新たな版に改定し、内容を進化及び深化させてきた。

「学校教育ビジョン」の目的は、子どもたちの「生きる力」「確かな学力」を育成するために、一人一人の自立に向けた「キャリア教育」の推進を図り、小規模校の連携による効果的な学習形態の研究と実践（RG授業）であり、その目的を達成すべく町のすべての学校を緩やかな一つの学校と捉えている。RG授業は、多様なサイズの効果的な学習形態とOJTによる教員研修を創り出す場でもある。

「学校教育ビジョン」の当初策定から5年が経過し、一定の効果が認められるようになり、県内外からの注目を集めるようになった。また、2017年8月からは、小中学校全校に校内無線LANが構築され、普通教室全てに電子黒板を配備し、全児童生徒、全教員に一人一台のタブレット端末が貸与され、ICT教育が開始された。2019年度現在、静岡県内ではICT教育のトップランナー的な存在となりつつある。

しかしながら、本町における少子化の波はさらに進行し、2019年現在の年齢別人口から推計をすると、2024年以降の各小学校の就学児童数は20台後半から30台にまでに減少する。減少しつつある就学児童の現状から、未就学児や就学児童生徒の保護者、地域住民などから学校教育に対する危機感、不安感が聞かれるようになった。

一方、文部科学省は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会であるSociety5.0を見据え、2020年度より、教育のパラダイム転換ともいえるべき新学習指導要領による教育を小学校より順次開始することになった。また、2015年には、学校教育法が改正され、小中一貫教育制度が整備され、小中一貫型小学

校・中学校や義務教育学校の制度が2016年よりスタートしている。

このような背景を踏まえ、川根本町教育委員会は、2018年に「川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会」（以下、協議会という。）と「川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会 研究会」（以下、研究会という。）を設置し、未就学児をはじめとする保護者や地域住民の不安感を最大限払拭しつつ、21世紀型教育で求められる資質・能力を育成できる質の高い持続可能な川根本町の学校教育について、研究会を8回、そして協議会を5回開催してきた。また、「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」（以下、教育に係る意見交換会という。）と「これからの川根本町の子育て・教育に係る意見交換会」（以下、子育て・教育に係る意見交換会という。）を開催し、未就学児、就学児童生徒の保護者、地域住民からの意見聴取を行った。

そして、教育に係る意見交換会と子育て・教育に係る意見交換会の意見を踏まえ、「川根本町立学校の今後の方向性」協議会報告書（案）を取りまとめた。これを、令和2年2月28日開催の教育委員会での承認と、令和2年3月2日開催の総合教育会議での協議・調整を経て、ここに「川根本町立学校の今後の方向性」報告書として報告する。

川根本町・川根本町教育委員会

# 1. 入学者数・児童生徒数の推移

年度別入学者数・児童生徒数

	6年	5年	4年	3年	2年	1年	2020入学	2021入学	2022入学	2023入学	2024入学	2025入学
第一小	11	10	7	8	4	8	7	8	4	4	2	2
中央小	11	9	7	12	14	7	5	7	2	6	3	6
南部小	6	6	8	7	10	9	8	9	6	8	3	5
本川根小	12	6	5	11	9	5	4	6	9	3	4	5
計	40	31	27	38	37	29	24	30	21	21	12	18

小学校(1年生含)  
複式対象  
2学年合計  
8人以下

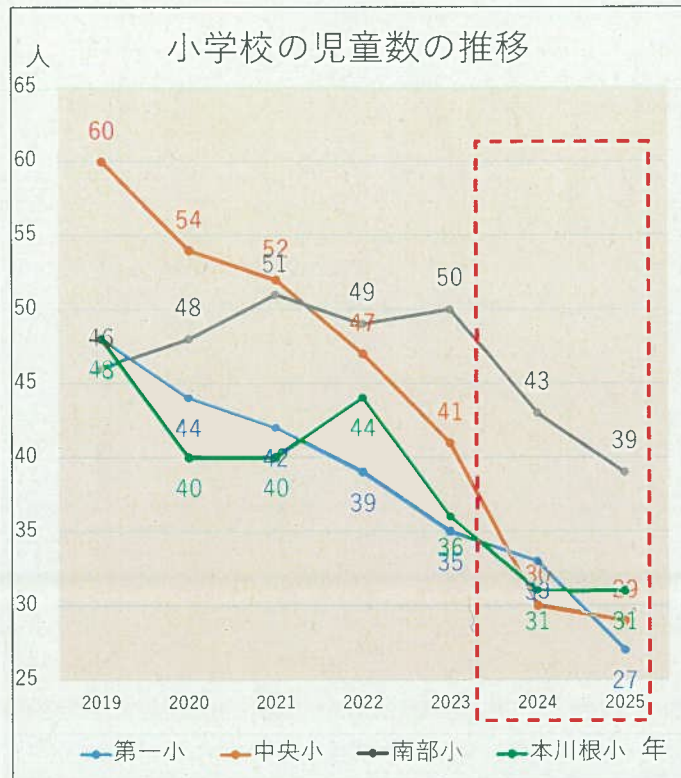
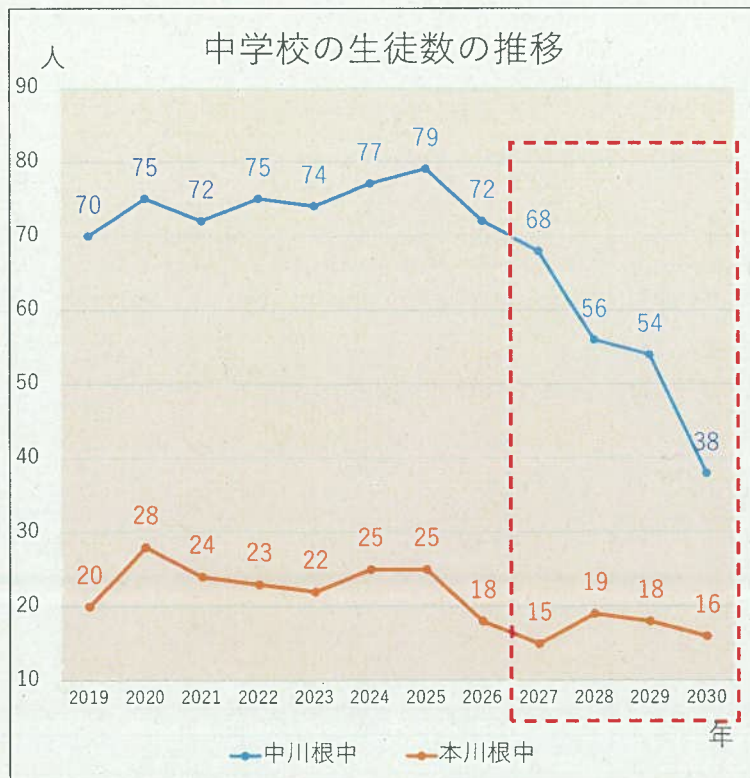
小学校  
複式対象  
2学年合計  
14人以下

	3年	2年	1年	2020入学	2021入学	2022入学	2023入学	2024入学	2025入学	2026入学	2027入学	2028入学	2029入学	2030入学	2031入学
中川根中	23	28	19	28	25	22	27	28	24	20	24	12	18	8	13
本川根中	4	10	6	12	6	5	11	9	5	4	6	9	3	4	5
計	27	38	25	40	31	27	38	37	29	24	30	21	21	12	18

町内小中学校の児童生徒数の推移

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
第一小	48	44	42	39	35	33	27					
中央小	60	54	52	47	41	30	29					
南部小	46	48	51	49	50	43	39					
本川根小	48	40	40	44	36	31	31					
小学校計	202	186	185	179	162	137	126					
中川根中	70	75	72	75	74	77	79	72	68	56	54	38
本川根中	20	28	24	23	22	25	25	18	15	19	18	16
中学校計	90	103	96	98	96	102	104	90	83	75	72	54
小中学校計	292	289	281	277	258	239	230					

中学校  
複式対象  
2学年合計  
8人以下



## 2. 川根本町立学校の今後の方向性

### 持続可能な川根本町の子育て・教育を目指して

#### ☆川根本町型学校教育制度

- 川根本町型義務教育学校の開校（現存施設の活用（小規模改修））
  - ・通学区域の弾力化
- 「0歳～18歳」のキャリアを線でつなぐ子育て・教育
  - ・保幼小中一貫の取組（合同研修会、保護者参加の意見交換会）
  - ・連続した就学支援
  - ・連携型中高一貫教育の継続
    - 教員授業交流
    - 生徒交流（川根の郷の夢を語る会・川根の郷「夢」プロジェクトなど）
    - 教職員合同研修会
- コミュニティ・スクール運用開始



#### ☆川根本町学校教育ビジョンの改訂

##### ◎『育てたい子供像』の共有

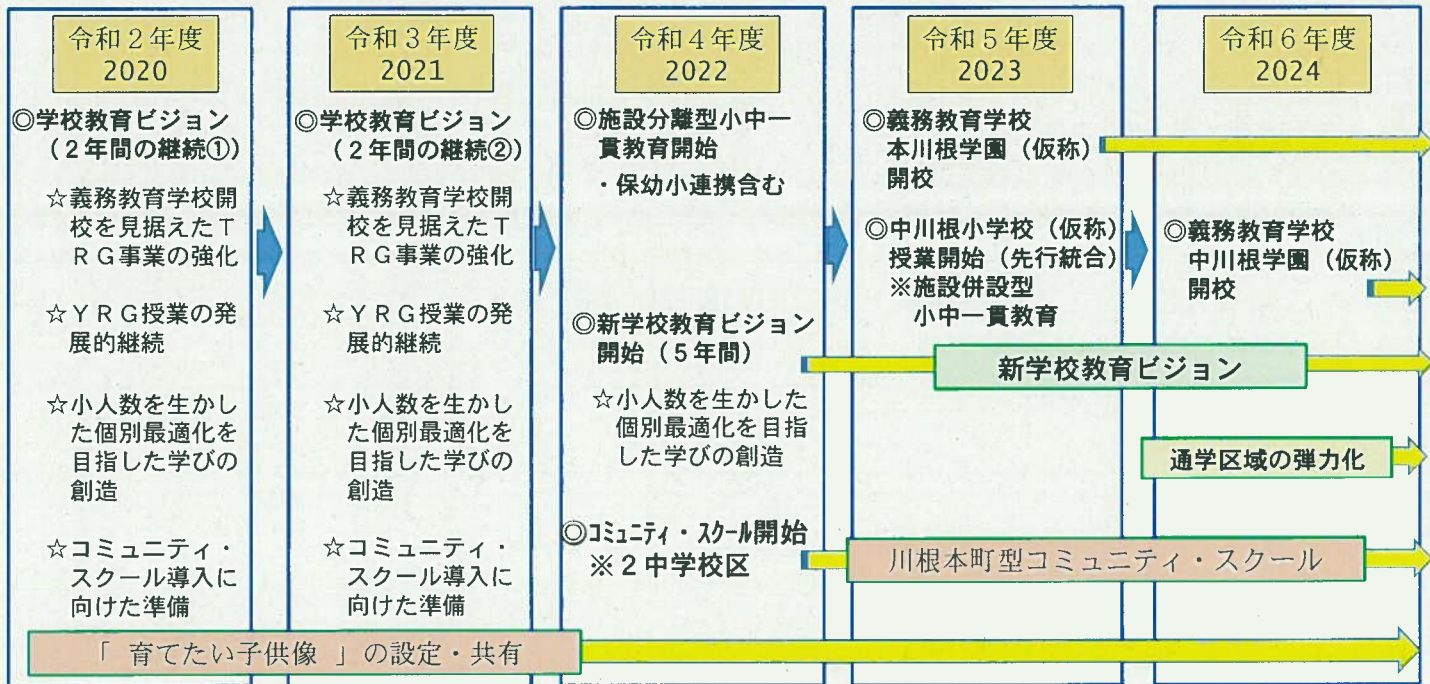
##### 町内外への広報活動の充実

- 個別最適化の学びを創造『新学校教育ビジョン（川根プラン（仮称））』
  - ・教科横断型学習の推進
  - ・インクルーシブ教育（特別支援教育）の充実
  - ・子供達が学びの主体となる教育
  - ・探究型学び
- キャリア教育を基盤としたカリキュラム・マネジメント
  - ・学年の枠を超えた学び

#### 【特色ある教育】

・ ICT 教育 ・ 英語 教育 等

### 3. 川根本町学校教育施策スケジュール案



### 4. 令和元年度の川根本町の小中学校の現状

町全体常勤県費教職員数：67人

常勤県費教職員数：14人



中川根中学校

常勤県費教職員数：12人



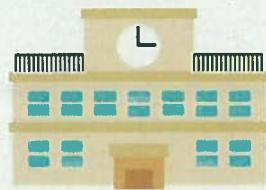
本川根中学校

常勤県費教職員数：10人



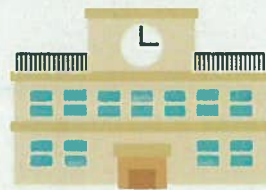
中川根第一小学校

常勤県費教職員数：12人



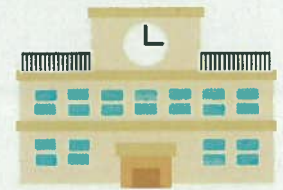
中央小学校

常勤県費教職員数：9人



中川根南部小学校

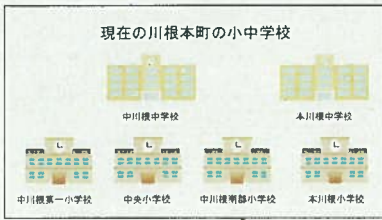
常勤県費教職員数：10人



本川根小学校

5. 教育施策スケジュール構想図

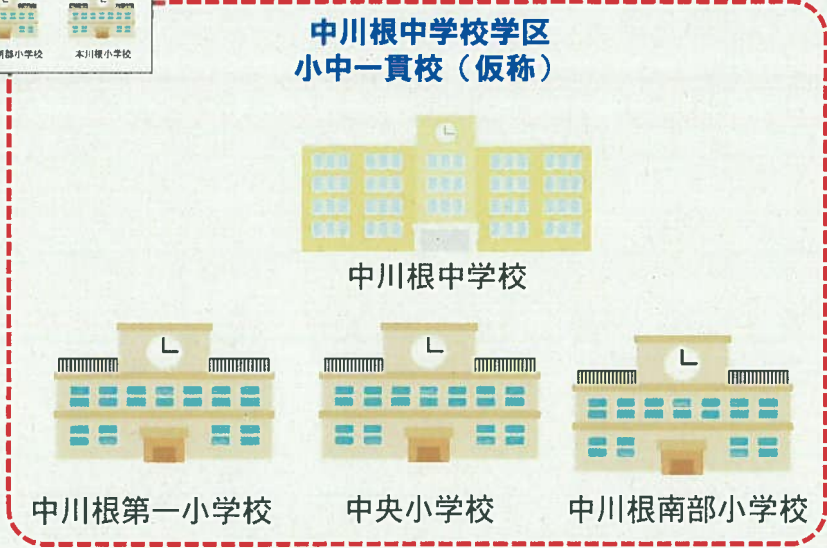
令和2～3年度



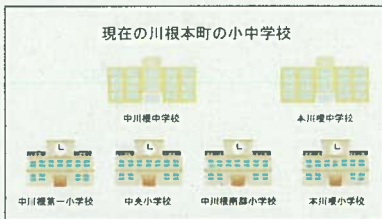
『**現行学校教育ビジョン**』（2年間継続）  
**施設分離型小中一貫教育の準備・一部実施**  
**コミュニティ・スクールの実施準備**

中川根中学校学区  
 小中一貫校（仮称）

本川根中学校学区  
 小中一貫校（仮称）



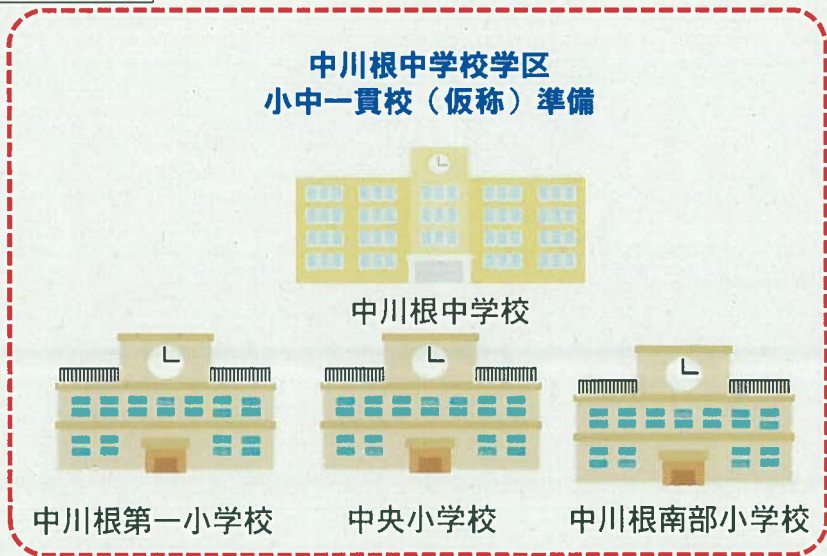
令和4年度



**義務教育学校移行準備（施設分離型小中一貫教育）**  
**コミュニティ・スクールの開始**

中川根中学校学区  
 小中一貫校（仮称）準備

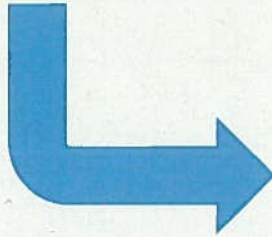
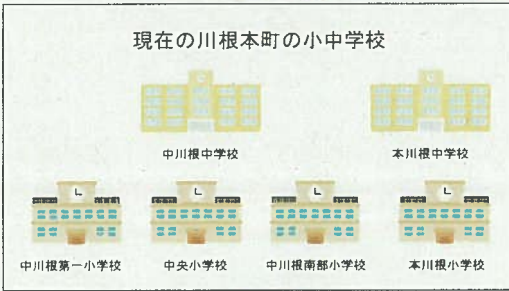
本川根中学校学区  
**義務教育学校**  
**本川根学園（仮称）準備**





**令和5年度**

**本川根地区義務教育学校開校**



**中川根地区義務教育学校開校に向けた3小学校先行統合**

常勤県費教職員数：27人  
※校長2、教頭2、教諭18人  
養護教諭2、栄養教諭1  
事務職員2

**中川根中学校学区  
小中一貫校（仮称）**



中川根中学校



**中川根小学校（仮称）**

統合 { 中川根第一小学校  
中央小学校  
中川根南部小学校

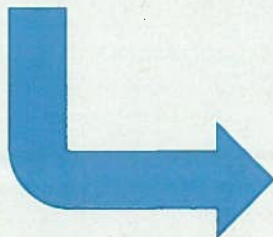
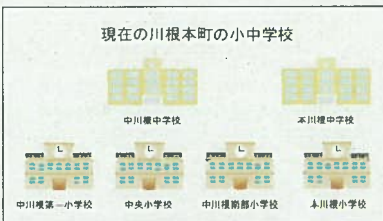
常勤県費教職員数：21人  
※校長1、教頭1、教諭17人  
養護教諭1、事務職員1

**義務教育学校  
本川根学園（仮称）**



統合 { 本川根中学校  
本川根小学校

**2つの義務教育学校  
（通学区域の弾力化）**



**町全体常勤県費教職員数：48人**

**令和6年度**

常勤県費教職員数：27人  
※校長1、教頭1、教諭22人  
養護教諭1  
栄養教諭1  
事務職員1

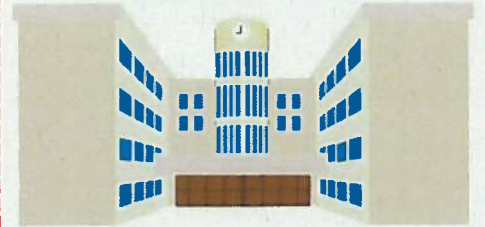
**義務教育学校  
中川根学園（仮称）**



統合 { 中川根中学校  
中川根小学校（仮称）

常勤県費教職員数：21人  
※校長1、教頭1、教諭17人  
養護教諭1、事務職員1

**義務教育学校  
本川根学園（仮称）**

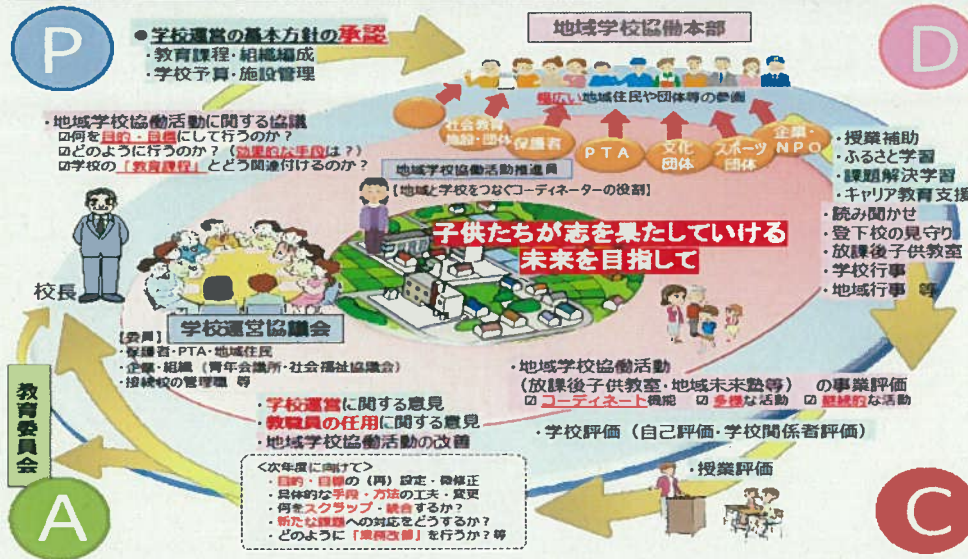


## 6. 参考資料

### コミュニティ・スクール（令和4年度中学校区単位で実施）

「地域とともにある学校づくり」に向けたコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

中学校区単位で  
学校運営協議会を設置



## 義務教育学校

- 小中学校の9年間を見通し、一つの教育過程で一貫して教育を行う。
- ・小6年、中3年の枠組みをはずし、教育活動を行うことができる。  
（例）4・3・2のステージ制など
  - ・1～9年生で構成され、9年時に義務教育学校の卒業式を行う。  
（小学校の卒業式がないのが一般的）  
※7年生進級時に大きなステップがなく中1ギャップが緩和される
  - ・小中学校の両校分の教員配当があり、安定した教員数が確保できる。  
※校長、教頭は1人のため、その分がさらに教員数がプラスとなる。  
※複式解消、小学校高学年からの教科担任制などの教育効果
  - ・小学校高学年から部活動に参加するなど柔軟に活動を計画できる。
  - ・一つの教育課程のため、1年生から高校進学を見据えた教育ができる。  
※小規模校であれば、個別最適な教育を展開するのに適している。
  - ・学年差を生かした特色ある教育活動が可能となる。

## 小中一貫型小学校・中学校（小中一貫校）

小学校6年、中学校の3年間の枠組みを残したまま、教育目標などを共有し、9年間を見通した教育を行う。

- ・施設併設型、施設分離（連携）型など多様な形態がある。  
（例）中学校1校＋小学校1校、中学校1校＋小学校3校
- ・教員の配当は小中学校ごと規定通りであり、それぞれに管理職を置く。
- ・小中学校それぞれの特色を生かした教育活動を行うことができる。  
※地域に根ざした教育を行いやすい。
- ・一貫校にすることで、教員の交流、児童生徒の交流などが行いやすい。  
※小学校高学年で、一部、教科担任制を導入することができる。
- ・既存の施設を活用し、特色ある教育を展開することが可能である。

### 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会（協議会・研究会）

#### 協 議 会

	開 催 日	内 容	場 所	開催時間
第1回	平成30年7月20日（金）	合同会議	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より
第2回	平成30年11月29日（木）	協議会	役場総合支所 2階 会議室	午後7時より
第3回	令和元年8月30日（金）	協議会	役場本庁舎 3階 会議室	午後7時より
第4回	令和元年12月12日（木）	合同会議	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より
第5回	令和2年2月19日（水）	協議会	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より

#### 研 究 会

	開 催 日	内 容	場 所	開催時間
第1回	平成30年7月20日（金）	合同会議	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より
第2回	平成30年8月7日（火）	研究会	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より
第3回	平成30年10月4日（木）	視察研修	浜松市引佐北部小中学校	午前7時45分出発
第4回	平成30年11月1日（木）	研究会	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より
第5回	平成31年1月16日（水）	研究会	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より
第6回	令和元年7月12日（金）	研究会	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より
第7回	令和元年12月12日（木）	合同会議	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より
第8回	令和2年1月20日（月）	研究会	山村開発センター 2階 大会議室	午後7時より

これからの川根本町の教育に係る意見交換会

	開催日	回数/日	場 所	開催時間
第1回	令和元年10月17日(木)	①	役場総合支所 2階 会議室	午後2時より
第2回		②		午後7時30分より
第3回	令和元年10月31日(木)	①	山村開発センター 2階 大会議室	午後2時より
第4回		②		午後7時30分より
第5回	令和元年11月4日(月)	①	山村開発センター 2階 大会議室	午前10時より
第6回		②		午後2時より
第7回		③		午後7時30分より
第8回	令和元年11月6日(水)	①	山村開発センター 2階 大会議室	午後2時より
第9回		②		午後7時30分より
第10回	令和元年11月7日(木)	①	役場本庁舎 3階 会議室	午後2時より
第11回		②		午後7時30分より
第12回	令和元年11月16日(土)	①	文化会館 1階 保健研修室	午前10時より
第13回		②		午後2時より
第14回		③		午後7時30分より

これからの川根本町の子育て・教育に係る意見交換会

	開催日	場 所	開催時間
第1回	令和2年2月6日(木)	子育て支援施設(ひだまり)	午前10時より
第2回	令和2年2月7日(金)	子育て支援施設(こもれび)	午前10時より

川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会(協議会)

平成30年度

	開催日	議 事	会 場
第1回	平成30年7月20日(金) 午後7時より	研究会との合同会議 委員委嘱及び任命 合同会議 (1) 協議会設置要綱について (2) 事業計画(案)について (3) 基礎資料の説明 (4) 質疑応答  協議会 副会長の指名	合同会議・協議会 山村開発センター 2階 大会議室 研究会 山村開発センター 2階 研修室
第2回	平成30年11月29日(木) 午後7時より	協議事項 (1) 現行の「学力向上ネットワークプラン～キャリア教育を基盤としたRG授業～」の検証と課題について (2) 川根本町の物的・人的資源等を最大限に活かすための教育のあり方について (3) 質疑応答	役場総合支所 2階 会議室

### 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会（協議会）

令和元年度

	開催日	議 事	会 場
第3回	令和元年8月30日（金） 午後7時より	協議事項 (1) 映像視聴 ・「Society5.0という社会」 （あなたのところにもこんな未来が！）政府広報 ・「新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて ～柴山・学びの革新プラン～」 ・「2020年度 子供の学びの進化 よくわかる新学習指導要領」 （内閣府） ・「貝ノ瀬茂文部科学省参事に聞く～コミュニティ・スクール」 (2) 令和元年度 教育のあり方検討協議会事業計画（案）について (3) 川根本町の教育～人口減少地域における特色ある教育づくり～ (4) 「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」（仮称） の開催について (5) 質疑応答	役場本庁舎 3階 会議室
第4回	令和元年12月12日（木） 午後7時より	協議事項 (1) 「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」報告 (2) 川根本町の物的・人的教育資源を活かすための 教育のあり方 について (3) 質疑応答	山村開発センター 2階 大会議室
第5回	令和2年2月19日（水） 午後7時より	協議事項 (1) 川根本町の物的・人的教育資源を活かすための 教育のあり方 について (2) 質疑応答・意見交換	山村開発センター 2階 大会議室

### 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会（研究会）

平成30年度

	開催日	議 事	会 場
第1回	平成30年7月20日（金） 午後7時より	協議会との合同会議 委員委嘱及び任命 合同会議 (1) 協議会設置要綱について (2) 事業計画（案）について (3) 基礎資料の説明 (4) 質疑応答 研究会 委員長、副委員長の選任 次回研究会の開催日程	合同会議・協議会 山村開発センター 2階 大会議室 研究会 山村開発センター 2階 研修室
第2回	平成30年8月7日（火） 午後7時より	協議事項 (1) 現行の「学力向上ネットワークプラン～キャリア教育を基盤としたRG授業」 の検証と課題について (2) 川根本町の物的・人的教育資源を最大限に活かすための教育のあり方について (3) 視察研修先について (4) 質疑応答	山村開発センター 2階 大会議室
第3回	平成30年10月4日（木） 午前7時45分出発	視察研修（午前10時～午後2時） 浜松市立引佐北部小中学校 (1) 学校概要説明 (2) 授業参観・施設見学 (3) 学校説明、協議Ⅰ ・小中一貫校の学校経営について ・小中一貫校の教育課程について ・小中一貫校の特色ある教育の具体について (4) 協議Ⅱ ・小中一貫校の教育効果について ・地域住民、保護者等の連携の具体 （コミュニティ・スクール） ・開校当時（準備）の苦勞	浜松市引佐北部小中学校 多目的室  浜松市立引佐北部小学校 浜松市立引佐北部中学校 浜松市北区引佐町四方浄134-6

## 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会（研究会）

### 平成30年度

	開 催 日	議 事	会 場
第4回	平成30年11月1日（木） 午後7時より	協議事項 (1) 10月4日開催の視察研修の感想について (2) 川根本町の物的・人的教育資源を活かすための教育のあり方について (3) 質疑応答	山村開発センター 2階 大会議室
第5回	平成31年1月16日（水） 午後7時より	協議事項 (1) 川根本町の物的・人的教育資源を活かすための教育のあり方について (2) 質疑応答	山村開発センター 2階 大会議室

### 令和元年度

	開 催 日	議 事	会 場
第6回	令和元年7月12日（金） 午後7時より	協議事項 (1) 映像視聴 ・「2020年度 子供の学びが進化 よくわかる新学習指導要領」内閣府 ・「教育の死の谷を脱するには」ケン・ロビンソン卿 (2) 令和元年度 教育のあり方検討協議会事業計画（案）について (3) 「これからの川根本町の教育のあり方を考える会」（仮称）の開催について (4) 質疑応答・意見交換	山村開発センター 2階 大会議室
第7回	令和元年12月12日（木） 午後7時より	協議事項 (1) 「これからの川根本町の教育のあり方を考える会」報告 (2) 川根本町の物的・人的教育資源を活かすための 教育のあり方について (3) 質疑応答	山村開発センター 2階 大会議室
第8回	令和2年1月20日（月） 午後7時より	協議事項 (1) 川根本町の物的・人的教育資源を活かすための 教育のあり方について (2) 質疑応答	山村開発センター 2階 大会議室

## 7. 「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」意見の概要

「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」日程表

開催日	会場
<b>【本川根小学校区】</b> 10月17日(木) 第1回 午後2時00分～午後3時30分 (5人) 第2回 午後7時30分～午後9時00分 (13人)	役場総合支所 2階 会議室
<b>【中川根第一小学校区】</b> 10月31日(木) 第1回 午後2時00分～午後3時30分 (5人) 第2回 午後7時30分～午後9時00分 (17人)	山村開発センター 2階 大会議室
<b>【町内全域】</b> 11月4日(月・祝日) 第1回 午前10時00分～午前11時30分 (7人) 第2回 午後2時00分～午後3時30分 (7人) 第3回 午後7時30分～午後9時00分 (8人)	山村開発センター 2階 大会議室
<b>【中央小学校区】</b> 11月6日(水) 第1回 午後2時00分～午後3時30分 (7人) 第2回 午後7時30分～午後9時00分 (18人)	山村開発センター 2階 大会議室
<b>【中川根南部小学校区】</b> 11月7日(木) 第1回 午後2時00分～午後3時30分 (4人) 第2回 午後7時30分～午後9時00分 (12人)	役場本庁舎 3階 会議室
<b>【町内全域】</b> 11月16日(土) 第1回 午前10時00分～午前11時30分 (2人) 第2回 午後2時00分～午後3時30分 (10人) 第3回 午後7時30分～午後9時00分 (23人)	文化会館 1階 保健研修室

※ 延参加者数 138人

「これからの川根本町の教育に係る意見交換会」内容

- 開会
- あいさつ
  - 川根本町教育委員会 大橋慶士教育長
- 説明事項
  - 「Society 5.0」という社会  
(あなたのところもこんな未来が！?) 政府広報映像視聴
  - 「2020年度 子供の学びの進化 よくわかる 新学習指導要領」  
内閣府映像視聴  
※上記映像視聴については、10月17日(木)のみ実施
  - 「教育改革最前線 ～自分を発信するチカラ～」  
SBS静岡放送 令和元年10月27日(日)放送映像視聴  
※上記映像視聴については、10月31日(木)から視聴
  - 川根本町の教育 ～人口減少地域における特色ある教育づくり～  
小・中学校の適正配置に係る組み合わせパターンの説明  
※10月31日(木)の意見交換会時の要望で11月4日(月)以降説明  
(パワーポイント資料を活用し説明)
- 質疑応答・意見交換
- 閉会

### キーワード1：児童・生徒数の減少への不安

#### 【主な意見】

- 小規模の良さは分かるが、学年2人では少なすぎる。また、学年に4～5人いても、女子が1人だけとなるとやはり不安である。同級生の中で切磋琢磨して学ぶこともたくさんある。
- 個別最適化は分かるが、少なすぎでは、アクティブラーニングのような新しい教育ができない。部活動もチームを組めない。
- 学年の人数が少ないことを理由に、入学前に引っ越してしまう家庭がたくさんあり、さらに子供の数が減ってしまう。
- 子供が少ないと、PTAなど、保護者の負担が大きくなることも不安である。

## キーワード2：子供の数を増やす取組を！

### 【主な意見】

- 少人数であることを不安に思っているので、子供を増やす取組をしてほしい。
- 入学前の小さな子を持つ保護者に対し、町の教育の魅力を伝えてほしい。
- 町の教育は素晴らしいが、子供を持つ家庭が町にいてもらえる対策が必要である。
- 移住相談会などの場で、町の教育の現状、最先端の教育をPRできれば、移住先として川根本町を選んでもらえるのでは。

## キーワード3：特色ある町の教育推進を評価

### 【主な意見】

- すごく良い取組をしてきて、子供たちはとても幸せだと思う。
- 話を聞き、今行っている取組自体、すごく子供のためにより教育を行っていることが分かった。
- 今は授業参観に行く面白くて一緒に笑ってしまうような感じで、子供たちも楽しさを感じている。先生方が、学んだことを生かそうと子供たちに接していることがすごく分かる。
- 5年間かけて子供たちが育つよう、いろいろな取組を行ってきて、非常に良いことだと思った。
- 現在の川根本町の教育は絶対に間違っていないと思う。



#### キーワード4：地域・少人数を生かした特色ある教育を！

##### 【主な意見】

- 小さな学校を維持してもらいたい。個性を生かす時代、小規模の学校で、個を大切に経験した教育が将来生きる。
- 子供の多様性やニーズに応えるためにも、教員数を減らさずに維持できる方法をとった方がいい。
- 一人一人を大切にし、一人一人に必要なキャリアを積んでいく教育が非常に大切である。
- 川根高校や川根本町の教育がものすごくいい。静岡に住む友だちも川根高校は最高だと言う。ITばかりでなく、さらに福祉科をつくるなどの特色を持たせたらどうか。

#### キーワード5：幼保小の連携、小中の連携、中高の連携を！

##### 【主な意見】

- 教育は、小学校、中学校さらに保育園、幼稚園との連携が大切だと考えている。
- 町には保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校がある。全部を通しての連携教育ができるのではないか。
- 数年前から、小学校と保育園で歩み寄っていこうと話をしているが、なかなか壁が乗り越えられない。課を越えて取組を共有し、保護者の抱えている不安を軽くしたい。
- 義務教育、学校教育だけでなく、その前後を含めた地域の全体の教育構想、子育てという視点を持つことが大切である。

## キーワード6：川根本町の子育て・教育のPR、広報活動を！

### 【主な意見】

- 当事者である保護者の考えは大事であり、保護者から話を聞く場を設けている今回のような場は良い。
- 町が子どもたちのために取り組んでいる内容を、分かりやすく、イメージしやすく、未就学児の保護者に発信してほしい。
- 学校に入学する前の保育園の中で、今回のような意見交換会を開き、説明をしてほしい。
- 良い取組をしていることもよく分かるので、特色をどう外部へ発信するかが大切だと思う。
- PTA総会や保護者が集まる機会に説明をしてほしい。

## キーワード7：学校のあり方(統廃合含む)のスケジュールを！

### 【主な意見】

- 義務教育学校や小中一貫教育という話が出たが、準備期間を含めて、計画を早く示してほしい。
- 将来的には、小中学校の垣根をなくして教育を行っていくことは良いと思うが、いつから実施するのが気になる。
- 小中一貫校、義務教育学校という発想が今までなかったが、実現するとしたら、準備期間がどのくらいかかるのか、またどんな形態になるのか詳しく知りたい。
- 協議した内容がいつ決まるのかが気にかかる。いつどんな形で進んでいくのかが入ってこないのが保護者として心配である。

キーワード8：こんな取組を行ったらどうですか！

【主な意見】

- 個別最適化の新しい教育で、川根本町独自のボーダレスな教育が生まれてくると面白い。
- 先生方の数を最大限減らさないこと、複式学級を回避することを調整すると、義務教育学校が浮き彫りになる。
- 一つの学校に早く集まって、特色ある教育を進めることを、強かに推し進めた方が効果的ではないか。
- いきなりまとめてしまうと、ついていけない子は置いてきぼりになる。今を生きる力が必要である。
- 川根高校の魅力化とともに、他の高校に行く子の支援を。

令和元年度 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方協議会 委員

	氏 名	職 名 等	備 考
	鳥 居 進	教育委員	委 嘱
	太 田 たみ子	教育委員	委 嘱
	森 下 洋 一	教育委員	委 嘱
	野 口 直 次	川根本町議会議員代表者 (町議会第2常任委員会委員長)	委 嘱
	森 下 仁	町立学校PTA代表(町P連会長) (本川根小学校PTA会長)	委 嘱
	鈴 木 絵 理	町立学校PTA代表 (中央小学校PTA母親代表)	委 嘱
	上 野 奈世美	さゆり幼稚園PTA代表 (さゆり幼稚園家庭教育学級代表)	委 嘱
	松 下 陽 子	川根本町内保育園保護者代表 (桜保育園保護者代表)	委 嘱
	山 下 初	地域住民代表 (町区長連絡会会長)	委 嘱
	笹 木 秀 明	地域住民代表(町区長連絡会副会長)	委 嘱
	井 澤 史 子	地域住民代表 (川根本町主任児童委員代表者)	委 嘱

令和元年度 川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方協議会研究会 委員

	氏 名	職 名 等	備 考
	鳥 居 進	教育委員代表（教育長職務代理者）	委 嘱
	鈴 木 憲	町立学校 学校長代表 （中川根中学校 校長）	任 命
	山 下 斉	町立学校 学校長代表 （中央小学校 校長）	任 命
	石 川 泰 宏	町立学校 教職員代表 （本川根中学校 教頭）	任 命
	西 澤 浩 美	町立学校 教職員代表 （中川根南部小学校 教務主任）	任 命
	松 下 文 代	さゆり幼稚園園長	委 嘱
	小 澤 いつ子	川根本町内保育園園長代表 （三ツ星保育園園長）	委 嘱
	新 林 章 輝	静岡県立川根高等学校教職員代表 （川根高等学校副校長）	委 嘱
	梅 澤 収	学識経験者（静岡大学教育学部附属 教育実践総合センター長／教授）	委 嘱
	芦 澤 恵美子	学識経験者（川根本町教育相談員）	委 嘱